

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
<p>1 「勉学を第一義とすること」を踏まえ、質の高い学力を育成する。</p> <p>・知的的好奇心旺盛な生徒に、本質に触れる質の高い授業を提供する。また、生徒1人1台端末を効果的に活用しGIGAスクール構想を展開するなどして、生徒の主体性を高め、学びに対して自走する力を育成することで、過年度生も含めた生徒の高い進路志望の実現を図る。</p>	<p>① 授業において「本質に触れる指導」「生徒の主体性や対話力を向上させる指導」を目指す。そのために、「本質に触れる指導」や「学習における生徒の自走」をテーマとした研究授業を、各教科や少人数のグループ単位で行い、授業改善に取り組む。</p>	<p>「授業が充実している」「興味関心が持てた」の2つの質問に対して、以下の①から④と答えた生徒の割合を算出し、順に4、3、2、1を乗じて加えた全体平均値α、βをそれぞれ算出する。</p> <p>① 「よくあてはまる」 ② 「ややあてはまる」 ③ 「あまりあてはまらない」 ④ 「全くあてはまらない」</p> <p>α、βの値が、 A ともに3.60以上 B ともに3.50以上 C 一方のみが3.50以上 D 一方のみが3.40以上</p>	<p>【判定】C 授業の充実度 3.49 興味関心 3.51</p>	<p>・今年度より授業改善の一環として授業評価アンケートの項目内容を全面的に改訂した。昨年度までの「授業の充実度」に相当するものとして「自身の成長を実感できる」かどうかを問い、「興味関心の広がり」に対応するものとして「習得したことをもとに考えたり、実際に活用できている」かどうかを問う形にした。</p> <p>・7月と12月の数値を比較したところ、各教科においては多少の変動が見られたものの、全体としては顕著な変化は見られなかった。学習が進むに伴い内容も深まり、それによって自身の成長を実感しづらかったためではないかと分析している。一方過年度と比較してみると、「興味関心の広がり」については3.35(R4)→3.40(R5)→3.43(R6)→3.51(R7)と順調に上昇している。</p> <p>・来年度は事前に評価項目やルーブリックを示すなど、より生徒が評価しやすいように工夫していきたい。</p>
	<p>② 生徒に、模試や大学入試の分析結果を提供し、大学・学部研究を深め、難関大学を志望する意欲を高める。特に、3年生には、東大・京大・医学部説明会や補習など、第1志望を貫く集団づくりを進める。また、共通テストに向け、習熟度別授業の実施や校内模試問題の研究により深い思考力の育成を進める。</p>	<p>東京大学・京都大学および国公立大学医学科合格者の合計人数(重複可)が、 A 40人以上 B 30人以上 C 20人以上 D 20人未満</p>	<p>【判定】B 38人</p>	<p>・東京大学12名、京都大学14名、国公立医学科12名の合計38名であった。医学科志望者が例年より少ない学年であったなか、特に東大志望者を減らさずに出願できたことで、12名の合格者を出せた。低学年次からの継続的な進路指導の成果があらわれている。</p> <p>・次年度も低学年次に重点をおき、高みを目指させる指導が肝要である。</p>
	<p>③ ホーム担任を中心に、年間6回以上の個別面接指導を実施し、文理選択を含め自身の進路について考えさせる。また、学習時間調査の結果も踏まえた指導により、家庭学習の定着を図る。</p>	<p>1年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>【判定】A 97.5%</p>	<p>・泉丘生としての基本的な学習生活習慣をつけることを狙いとし、個々の生徒の状況に応じた面談を行った。文理選択に当たっては将来の自分の姿をイメージさせるとともに、大学や学問を調べ、主体的な進路選択をするよう学年全体で声かけた。今後も、生徒が自己肯定感をもって有意義な学校生活が送れるよう、学年全体で見守り、支援していきたい。</p>
	<p>④ ホーム担任は、年間5回以上の個別面接指導を通して、自分を見つめさせ、高い進路志望の確立を図る。また、集会や希望者補習なども通して、自発的な学習を促す。</p>	<p>1年間の学年団の指導が、自分の学力や学習姿勢の向上に役立ったと考える生徒の割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>【判定】A 97%</p>	<p>・各生徒に応じた面談を年間5回程度実施した。進路設計や学習に関するアドバイス、生活面における精神的ケア等が主たる内容である。また、定期的に学年集会を開き、その時期に応じた意欲を高めるための話をした。</p> <p>・「先生方の指導は、学力・学習意欲の向上に効果的である」に対してほぼ全員の生徒が肯定的な回答をおこなっており、やはり授業における教師と生徒の信頼が生徒の意欲向上に繋がると思う。</p>
	<p>⑤ 本質に触れる質の高い授業を提供し、また放課後補習および個人添削指導等を通して、生徒一人一人の志望や学力にあわせた、「個に応じた指導」も展開していく。</p>	<p>難関10大学及び国公立大学医学部医学科の合格者の合計人数(重複可)が、 A 100名以上 B 90名以上 C 80名以上 D 80名未満</p>	<p>【判定】A 124名</p>	<p>・個々の志望や学力に応じて、担任だけでなく、学年・教科・進路指導課が連携しながら指導を行った。1、2年次の状況も常に学年全体で共有した。</p> <p>・生徒が安心して学校を学習の拠点とできるよう、放課後には教室などで学習する環境を整え、仲間と切磋琢磨することで、高い志望に挑戦する生徒も多かった。</p> <p>・個人面談を効果的に実施し、学習のモチベーション向上や精神的なサポートに努めた。難関大学を志望する生徒には、放課後補習や個別添削を行うなど、手厚く支援した。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・生成AIの活用法や学習の在り方について、どのように捉えているか。 ・アンケート評価が高い項目は、自由記述を設け、多様な意見を拾い上げることを考えてはどうか。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・生徒の自学自習の場面では、すでにAIの活用が進んでいるように思われる。学習における具体的な活用の在り方については、今後さらに検討していく必要があるが、「本物の学力」を身につけるという姿勢に立ち、その効果的な活用法を研究していく。 ・多様な生徒の意見を汲み取れるようなアンケートを模索していくとともに、生徒のニーズに応じていく姿勢を継続していきたい。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
2 探究活動プログラムの進化・発展及び成果の普及に努める。 ・これまで積み上げてきたSSH・SGHプログラムを進化・発展させ、2つのプログラムを融合させた新しい探究活動プログラムを全校生徒に対して実践する。加えて、その指導法を本県高等学校に波及させるとともに、あまねく県民の方に発信する。	① これまで取り組んできた自然科学的な探究活動の成果を活用し、生徒の多面的・多角的なもの見方、思考する力、行動する力など探究する力の向上を図る。特に、普通科普通コースの探究活動ではSGH推進室と連携し、文理の領域を融合させた新しい探究プログラムを確立し、その実践を図る。	学校評価アンケートにおいて、「自分自身の探究する力、思考する力、行動する力」「思考力・分析力や表現力」が高まったか。の設問に対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答するSSH主対象生徒の割合の平均が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	理数科： 【判定】A 1年：98.5% 2年：92.2% 3年：96.0% 普通科 普通コース： 【判定】B 2年：83.8% 3年：86.5%	・理数科では、3年間を通じた探究プログラムが確立していることから、いずれの学年も高い数値となった。今後も、次世代社会を見据えたプログラムへの改善を進めていきたい。 ・普通科では、令和5年度から実施している探究プログラムが定着し、資質能力の向上を自覚する生徒が増えてきている。今後も3年間を見通した探究プログラムの不断の改善を続けていく。
	② 課題研究を軸とした探究活動プログラムの改善を図り、より文理融合を強化したカリキュラム開発を行う。また、グローバルリーダーに必要な思考力、協働力、表現力を身につけているかという項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とする生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	『SG探究基礎』（1年）『課題探究Ⅰ』『SG探究』（2年）『課題探究Ⅱ』『SG探究活用』（3年）において、グローバルリーダーに必要な思考力、協働力、表現力を身につけているかという項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」とする生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】B 1年 90.2% 2年 85.0% 3年 86.5%	1年普通科「SG探究基礎」において、昨年度より立ち上げた企業連携プロジェクトを充実させることができた。これにより次年度に向けた生徒たちの課題研究へのより強い動機づけになった。2年普通コース「課題探究Ⅰ」においては、教員の探究ファシリテーションスキルが充実してきており、より活発な取り組みが展開された。2年SGコース「SG探究」では、様々なバックグラウンドを持つ外部講師を招待し、多様な対話やディスカッションの機会を維持し、生徒の表現力を涵養することができた。今後はグローバルな視野をどのように取り入れるかをあらためて模索していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・グローバルリーダー育成を意識した課題探究の取り組みは何か。 ・探究活動の場として公民館を活用しているようだ。今後も積極的な活用を期待する。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・課題探究を進めるにあたり、海外修学旅行や学校外の行事での体験を通して培った幅広い視野や多面的な考え方を、探究活動に積極的に活用させる。また、さまざまな大会や行事に参加することで、外の世界との交流を深めさせたい。		
3 「品位を高め、他者の人格を重んずること」を踏まえ、よりよき集団づくりをめざし、絶えず自己研鑽に努める生徒を育てる。 ・部活動・生徒会活動・学校行事等を通して、自分の考えを発信するとともに他者の考えも尊重し、集団の共通目標に向かって協働して粘り強く行動する力を育成する。 また、挨拶の励行や校内美化、様々なマナーを遵守することで周囲から応援される人	① 各種の講演会を生徒の発達段階に応じて適正に開催し、品位を高めるとともに、リーダーシップを発揮し、グローバル人材としての資質を育成する。	「講演会が知識や経験を学び、生き方を考える良い機会となっている」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】B 88%	・今年度の「生き方講演会」では、明海大学外国語学部教授の小谷哲男氏をお招きし、「よくわかる国際情勢」という演題でご講演いただいた。ウクライナ情勢をはじめとして中国やアメリカなどの事例を題材とし、五つの基本概念と三つの分析枠組を知ることで、現代の国際情勢を容易に理解することができ、生徒の興味を大いに引きつけた。 ・その他の講演も生徒にとって適切な時期にふさわしい内容で実施した。来年度も、生徒のニーズを考慮して講師や講演内容を吟味していきたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を図ることを目的に、以下の挨拶指導を徹底する。 ・場面に応じた、元気で明るくさわやかな挨拶 ・職員室等の入室マナー ・授業の開始、終了の挨拶	「私は、外部からの来校者に対してしっかりと挨拶や会釈をしている」と答えた生徒が、 A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	【判定】C 83.9%	・昨年比5.3ポイント減であった。 ・「生徒自身が挨拶や会釈ができておりと認識している割合の低下」と「教員の指導不足」に関係性があるように感じる。 ・挨拶は、人と人をつなぐ大切な行為であり、他者を尊重し、良好なコミュニケーションを築くために不可欠であることを、全校集会や学年団の協力のもと学年集会・ホームルーム等でも啓発していきたい。
	③ 「いじめを絶対に許さない」学校づくりを推進するために未然防止の取り組みを行う。	「他人の人格を重んじ、尊重する態度で接するとともに助け合う仲間づくりができる」と答えた生徒が、 A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	【判定】B 97.1%	・今年度も、学校生活に係るマナー指導やさまざまな啓発活動を通じて、他者を尊重し、良好なコミュニケーションを築くことの重要性を伝えてきた。 ・他者の言動を尊重し、認め合う態度を育む指導を今後も継続していきたい。
	④ 部活動等の活性化及び競技力の向上を図るとともに部活動と勉学の両立（文武両道・文武不岐）をめざす。	県予選を通過しブロック大会以上の大会・行事等に出場した部活動が、 A 21以上 B 17以上 C 13以上 D 13未満	【判定】B 運動部 7 文化部 10	・運動部、文化部ともに各種大会・発表会で練習の成果を発揮した。令和7年度石川県高等学校総合体育大会では総合5位（男子7位、女子7位）であった。 ・女子の運動部加入率が低下傾向である。加入に向けて手立てを考えたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
	⑤ 環境ISO活動を意識して、環境保全に配慮した生活となるようにする。ゴミの分別や節水・節電に取り組む。	校内の環境保全活動に努めていると答えた生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】A 93.0%	・学校評価アンケートの結果、93.0%（「あてはまる」50.6%・「ややあてはまる」42.4%）の回答を得た。しかし昨年度は、あてはまる57.8%・ややあてはまる35.7%だったことを踏まえると、あてはまると回答した生徒の割合が大きく減った。 ・数値については一過性のものなのかどうか継続してみていく必要があるが、環境問題は一人一人の行動が重要になる。そのため学校で取り組むことができる、「ごみの分別、節電、節水」を一人一人が意識し、実践できるよう指導を徹底していきたい。
	⑥ 読書推進活動と学習環境整備に努め、学校図書館としての機能と魅力を高める。委員会活動、購入図書の精選、広報活動、教科や調べ学習の場の提供などにより、貸し出し冊数や入館者数の増加をはかる。	1年間の図書の貸し出し冊数が、 A 3,500冊以上 B 3,000冊以上 C 2,500冊以上 D 2,500冊未満	【判定】B 3,188冊	今年度の貸出冊数は前年度とほぼ同様、コロナ等も漸く収まり、大型Airdogも二台機能し、更なる環境改善に腐心することが出来た。ひいては閲覧室の座席に余裕を持たせ、快適さを計った。一年生の図書オリエンテーションでの貸出を嚆矢として、各学年の個人貸出も概ね良好であったが、生徒は各自所有のchromebookの採用により、調べ学習の貸出は減少、いきおい冊数総計の減少を招くのは不可避的ではあるものの、喫緊の課題ではある。よって適切な対策を講じながら、特色ある図書館造りに努めていきたい。
	⑦ 悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間の連携を密にしながら、生徒一人一人が希望を持って学校生活を送ることができるように支援する。	相談室を利用した生徒へのアンケート「気軽に相談でき利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】A 93.0%	12月末までに相談室を利用した生徒はのべ154名である。相談室を利用した生徒に対するアンケート結果は、利用したことがあると回答した43名に対し、「気軽に相談でき、利用しやすい」の項目で、「よくあてはまる」+「ややあてはまる」の割合が93.0%（40名）だった。次年度も、学年・保健室・スクールカウンセラーと連携し、生徒が気軽に利用できるような相談室にしていきたいと考える。
学校関係者評価委員会の評価	・生徒の自転車乗車マナーやバス車内の乗車マナーは数年前と比較して改善されており良好である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・生徒会が中心となって生徒に「公共マナー」について考えさせ、実際の行動につなげた。有意義な取り組みであったため、今後も継続していきたい。 ・挨拶の励行や自転車乗車マナーの指導については、今後もPTA等と連携・協力しながら取り組んでいきたい。			
4 「正義を愛し、社会から信頼されること」を踏まえ、生徒とともに開かれた学校づくりに努める。 ・授業公開など学校公開の機会の拡大を図る。とりわけ、探究活動を通して、防災をはじめとする自然科学的課題や社会課題などの解決に向け思考し、定量的・定性的根拠をもって提案する力を育成する。	① 保護者懇談会、PTA活動、いしかわ教育ウィークなどを通して積極的に学校を公開し、保護者や地域住民との連携を強くし、開かれた学校づくりをめざす。	今年度の「PTA総会」、「いしかわ教育ウィーク期間中」の保護者・地域住民の来校合計数が、 A 1,500名以上 B 1,200人以上 C 900人以上 D 900人未満	【判定】A 1,687名	・各行事の参加人数は「PTA総会」1,097名、「いしかわ教育ウィーク」590名であった。本校に対する保護者や地域住民の関心の高さをうかがうことができた。 ・保護者や地域住民が来校しやすく、学校をより一層理解していただけるような行事運営を図っていきたい。
	② 理科1,2年生、普通科1,2年生及び、科学系の部所属の生徒が「金沢泉丘サイエンスクラブ」、「創立記念祭における理科教室」等、自ら企画・運営・参加する機会を増やし、内容を充実させることで、科学教育を推進する。	理科教室、金沢泉丘サイエンスグランプリおよび金沢子ども科学財団との連携プログラム、サイエンスフェスタ等SSHのプログラムの参加者がアンケートで、「参加して大変良かった」と回答する割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】A 94.4%	・回答数36中、「大変良かった」34、「良かった」2であった。「あまり良くなかった」「良くなかった」の回答はなかった。 ・参加者からは「楽しかった」という感想が多く、科学を学ぶことの意義を感じてもらえたようである。アンケートに「泉丘高校に入学できるように頑張ります」と書いた小学生もいて、好循環をうむキッカケになれば、なお良い。 ・企画運営に当たった生徒たちも楽しんでた。
	③ 「学年だより」、「進路だより」「学校HP」等を通じて、保護者に学校の様子を理解していただく機会を増やし、保護者の学校行事への参加拡大につなげていく。	「学校からのたよりによって、学校の様子がわかる」と回答した保護者が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】B 81.4%	・進路だよりまたは学年だよりを各学年とも10回程度発行し、学年としての情報を発信した。 ・「学年だより」「進路だより」「学校HP」を「見ていない」「わからない」と回答している割合が1割程度あり、今後の課題である。また、学校HPにおいては工夫の余地が残されている。 ・引き続き、学校の様子を伝えることでご理解やご支援を賜りたい。

石川県立金沢泉丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策）
	④ 県教委主催のフィールドワークに参加するなど、防災意識の向上や災害時の対応力の育成を図る。	防災への意識が高まったと回答した生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】A 95%	・小松市民病院の西野拓磨氏をお招きし、「災害医療、能登半島地震での活動」という演題でご講演いただいた。災害現場におけるリーダーシップや被災者の心に寄り添う救助・救援活動について考えさせられた内容であった。 ・今後も、生徒の防災に対する当事者意識を高める取組を模索して参りたい。
学校関係者評価委員会の評価		防災関連の行事に参加した生徒の反応はどのようなものか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		被災地の現状を自分の目で見ることや現地の人からの話を誠実に聞き、自分事として震災や復興を認識するとともに、防災意識を高めることに繋がった。		
5 組織運営・教職員の働き方の改善により、教育活動の効果を一層高める。 ・効率的で密度の濃い学習活動、部活動・生徒会活動の推進に努める。	① 業務の見直しや密度の濃い会議運営など、組織運営の効率化を進め、職場環境の改善や教職員の意識改革、時間管理の工夫を図る。これにより、教職員のワーク・ライフ・バランスを実現し、教育活動の質の向上を目指す。	ワーク・ライフ・バランスをとることにより、気力、知力、体力が充実し、一層効果的な教育活動を展開できていると回答する教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定】B 89.6%	・月2回の定時退校日や部活動休養日、夏季休業中の学校閉庁日の設定に加え、職員会議等を勤務時間内に収める工夫、自動採点ソフトの活用や会議のペーパーレス化などを通して業務の効率化を進めてきた。その結果、ワーク・ライフ・バランスに対する意識の向上については、一定の成果が見られる。 ・時間外勤務時間には個人差が認められ、業務の偏在の是正や、業務内容の精選・見直しを求める意見があった。 ・教職員の負担軽減を図りながら、教育活動の質の向上につながる取り組みを、組織的に構築していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		教職員のワークライフバランスを実現するには、働き方に対する意識を見直し、時には業務を割り切る姿勢も必要になる。また、従来のやり方にとらわれず、仕組みを大きく見直すことも求められる。さらに、有給休暇を取得しやすい環境を整えることも欠かせない。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		例えば定期試験の採点業務において、「採点ソフト」を活用することで採点が効率化している。しかし時期によっては部活動、教材研究などで時間外勤務時間が多くなる傾向が依然としてある。今後もどんな改善ができるか検討していく。		